

今回は大腸ポリープの取り扱いの最新情報を読者の皆さんに提供することを目的に企画した。筆者が大腸の polypectomy を始めたのは、1978 年頃である。当時は高周波を用いたスネアによるポリープ切除術がおもな手技であった。なお、一部の施設では、5 mm 以下の小さな病変に対しては hot biopsy 鉗子で組織の一部を回収しつつ残存ポリープを焼灼する方法が行われていた。Polypectomy は、助手と術者が呼吸を合わせてポリープを把持・絞扼して通電して切除していたが、スネアを操作する助手との呼吸が合わず、通電前にポリープを切除してしまうことがあった。通電前に切除すると、直後の出血が目立つため、入院して経過観察したこともあった。外来で様子を見た場合には、夜間救急外来に呼び出されるのではと心配したものである。高周波で切除した場合は、後出血はあるものの、切除時の不安はなかった。約 40 年経過した今日では、cold polypectomy と称される、この「なまぎれ」の切除法が、高周波を使用する手技に比べ安全性が高く、また、抗血小板薬や抗凝固薬使用中でも安全に施行できるなどの新たなエビデンスが示され、急速に普及してきている。また、当時は、高周波を使用する場合、病変周囲の水分は十分吸引してから施行するように心がけ、指導もしてきたが、最近では浸水下(生理食塩水)で EMR を行うなどの手技が開発されており、古い内視鏡医の常識が非常識となってきたと感じる。これが治療技術の進歩なのであろう。

大腸ポリープの取り扱いの最新情報の執筆をお引き受けいただいた専門家諸氏に感謝するとともに、今回の企画が読者の日常診療の一助となれば幸いである。

(五十嵐正広)

臨牀 消化器内科® Vol. 34 No. 9

©2019 年 7 月 20 日発行

定価(本体 3,000 円 + 税)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・ Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2019, Printed in Japan

・ 本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・ JCOPY <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所／日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8 電話 03-5226-2791